

子供の健康と教育はどの国でも大きな関心事のひとつだが、イギリスでは戸外での遊びと添加物が子供の発育に与える影響について2つの研究レポートが発表された。

戸外での遊びの減少と子供の健康

イギリスで約300人の学術研究者や有識者、慈善団体の代表者によって署名された最新の学術研究レポートによると、保護者などからの最低限の監視の元で、外で子供が自由奔放に遊ぶことは、子供の健やかな発育に不可欠な要素であり、子供たちの遊びの減少は、子供のメンタルヘルス(心の健康)に極めて大きな悪影響を及ぼしていると警告している。

今年発表されたユニセフの報告書によると、イギリスは先進国21カ国の中で子供にとって最も不幸せな国と発表されたが、この研究レポートでは、過去15年間にわたる遊びの減少傾向がその主要因であると述べている。

子供たちの周りにはいつも座ったままで遊べるTVやコンピュータゲーム、精巧に作られすぎたおもちゃが溢れており、ときにこれらは子供たちにとって病み付きになりやすい。

『Toxic Childhood』の著者Sue Palmerとローハンプトン大学の上級講師Richard House博士(専門は精神療法)は、遊びのあるべきすがたとして-1)社会的な対話があること、2)直に体験すること、3)最低限の監視があること-を指摘している。

この研究レポートでは、子供の健康的な成長における、遊びの本質と役割について広範囲にわたる公開討論の場の設立を求めている。



子供への食品添加物の影響

300人の子供を対象とした英国食品基準局(FSA)が行った研究によると、添加物の含まれた飲料を飲んだ後に、子供たちに動きが多かったり、集中が困難などの症状を現れたという。

この研究をうけて、FSAは多動性やADHD(*Attention Deficit Hyperactivity Disorder*:注意欠陥・多動性障害)は遺伝子を含め、環境や教育等の様々な要因が関連していると前提した上で、これらの症状を示した子供にとって、対象となった着色料を食事から除くことは有効であると述べた。

Jim Stevenson教授はこの研究報告の中で、アイスクリームや菓子類に使われる保存料と、人口着色料のある組合せは、多動性の増加に関係があると指摘している。

彼は、単に食品から添加物を排除することが多動性の防止につながるものではないとしながらも、添加物は子供が避けることの可能なものの1つと述べている。

幼児向け医薬品への添加物

Food Magazineによる調査によると、3歳以下を対象とした薬の大多数に、3歳以下向けの食べ物や飲料では禁止されている添加物が使用されていることが明らかとなった。

製薬会社は、医薬品としての性質上、最低限の保存料や甘味料の使用と安全性を主張する一方で、Food Magazineはそれらを天然成分から作られた代替品で置きかえることを求めている。

